

北九州市ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理計画（概要）

1 章 処理計画策定の経緯

- 1 背景 P C B による環境汚染の拡大の恐れ、 国際条約による規制
- 2 関係法令等 ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法等
- 3 処理体制の確立 日本環境安全事業（株）（旧 環境事業団）による北九州 P C B 処理事業

2 章 処理計画の基本事項

- 1 目的 北九州市内の P C B 廃棄物の安全かつ適正な処理を総合的かつ計画的に推進するための方策を定め、市民の健康、生活環境の保全を図る。
- 2 期間 平成 16 年 12 月～平成 27 年 3 月
- 3 区域 北九州市全域
- 4 対象 北九州市内で保管されている P C B 廃棄物

3 章 市内の P C B 廃棄物の保管量、使用量及び処分見込み量

- 1 処分対象量（保管量＋使用量）
高圧トランス 580 台 高圧コンデンサ 2,705 台 低圧トランス 181 台
低圧コンデンサ 7,204 台 安定器 38,147 台 P C B を含む廃油 18 k L
感圧複写紙 3,802kg ウエス 748kg その他の機器等 167 台 その他 597 トン
- 2 処分見込み量は、日本環境安全事業（株）の第 1 期工事の処理施設で処分することができる高圧トランス、高圧コンデンサ、P C B を含む廃油 及びその他の機器等である。
市内分を先行して処分することから、早期の処分を見込んでいる。

4 章 P C B 廃棄物の安全かつ適正な処理の体制と推進

1 安全かつ適正な処理の体制

日本環境安全事業（株）の北九州 P C B 処理事業による体制

2 処理施設の概要

| | | | |
|------|------------------------|--------|--------|
| 実施場所 | 北九州市若松区響町一丁目 | 事業対象地域 | 西日本17県 |
| 処理方法 | 第1期 化学分解法 脱塩素化分解方法 | 第2期 | 未定 |
| 処理能力 | 第1期 P C B 分解能力 0.5トン/日 | 第2期 | 未定 |

3 安全かつ適正な処理事業の推進

(1) 安全かつ適正な処理事業

日本環境安全事業(株)は関係法令、市と締結した環境保全協定を遵守し、安全性を確保した施設を適正に運用する。

(2) 計画的かつ効率的な処理事業

多量保管事業者(高圧トランス及び高圧コンデンサを合わせて10個以上を保管している事業者)は、自社の処理計画を作成し、計画的な処理を行う。

(3) 処理事業の情報公開

日本環境安全事業(株)等は、積極的な情報公開を行うことにより、市民が安心できる処理事業を推進する。

(4) 関係者の責務と役割

国、日本環境安全事業(株)、保管事業者、収集運搬業者及び本市の責務と役割

4 安全かつ効率的な収集運搬の推進

(1) 安全かつ効率的な収集運搬

国の法令・基準(廃棄物処理法等、収集運搬ガイドライン)及び日本環境安全事業(株)受入基準を遵守する。さらに、市の地理的条件から次の運行条件を定めた。

ア 収集運搬経路は、国道、北九州都市高速道路等。(処理計画の図4-1を参照)

イ 収集運搬時間は、7時~18時。11月~2月は8時~17時。

ウ 台風、大雨、積雪等により運行に支障が生じる場合などは運行しない。

(2) 関係者の責務と役割

収集運搬業者、本市、及び日本環境安全事業(株)の責務と役割

5 適正な保管管理の推進

(1) 保管事業者は、廃棄物処理法に基づく保管基準を遵守し、届出を行う。

(2) PCB使用機器の使用者は、早期に使用を中止し、適正な保管を行う。

(3) 市は、廃棄物処理法に基づく届出、保管基準の遵守を指導し、不法投棄防止を指導する。

5章 市民への情報公開

1 北九州市PCB処理監視委員会の開催

2 仮称PCB処理情報センターの設置

3 市政だより、説明会等による市民への情報公開